

都市再生整備計画 事後評価シート 福崎駅周辺地区

令和2年3月

兵庫県 福崎町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	兵庫県		市町村名		福崎町		地区名		福崎駅周辺地区			面積		291ha		
交付期間	平成26年度～令和元年度		事後評価実施時期		令和元年度		交付対象事業費		1,084百万円		国費率		0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名														
		基幹事業	駅前広場(道路)、案内板(地域生活基盤施設)、モニュメント・シェルター・照明(高質空間形成施設)、駅前観光交流センター(高次都市施設)													
		提案事業	バス運行社会実験(地域創造支援事業)、パークアンドライド駐車場利用補助社会実験(地域創造支援事業)、事業効果分析調査(事業活用調査)													
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	自転車駐輪場(地域生活基盤施設)				駐輪可能台数にまだ余裕があり、民間事業者により十分に 対応可能と判断したため、事業削除				影響なし					
			駐車場(地域生活基盤施設)				駐車場予定地については、駅前地区の地権者からの代替地 提供要望に対応するため、事業削除				他に福崎駅周辺に民間駐車場があるため、影響なし					
	提案事業	なし				－				－						
	新たに追加した事業	基幹事業	辻川界限町道(道路)				辻川界限における観光客の周遊の円滑化を図るため、事業 追加				目標を定量化する指標に「辻川界限観光施設の年間利用 者数」及び「観光客の町内滞在時間」の項目を追加					
			多目的広場(地域生活基盤施設)				観光客等と地域住民との交流や憩いの場を創出するため、 事業追加				同上					
			辻川界限歩道(カラー舗装)(高質空間形成施設)				既に美装化されている銀の馬車道と一体的に辻川界限にお ける散策の魅力を高めるため、事業追加				同上					
			高質舗装(駅前歩道)(高質空間形成施設)				まちの顔としての駅前広場の歩行空間の魅力を高めるた め、事業追加				影響なし					
			辻川観光交流センター(高次都市施設)				観光客等と地域住民との交流や憩いの場を創出するため、 事業追加				目標を定量化する指標に「辻川界限観光施設の年間利用 者数」及び「観光客の町内滞在時間」の項目を追加					
			旧辻川郵便局舎移築(既存建築物活用事業)				文化財の保存と活用を推進するため、事業追加				同上					
		提案事業	三木家住宅(土塀)(地域創造支援事業)				辻川界限の憩いの空間創設及び景観の向上を図るため、事 業追加				同上					
			スタンプラリー・もちむぎ商品紹介(地域創造支援事業)				観光客の周遊性向上と地元特産品をPRするため、事業追 加				同上					
			旅行社タイアップ(地域創造支援事業)				地域の魅力発信とともに、観光地としてのブランド価値を高 めるため、事業追加				同上					
			研修会・ワークショップ(まちづくり活動推進事業)				地域の魅力を来訪者に発信していくため、事業追加				同上					
		交付期間 の変更	当 初	平成26年度～平成30年度			交付期間の変更による事業、 指標、数値目標への影響	影響なし								
	変 更		平成26年度～令和元年度													

	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み		効果発現要因 （総合所見）	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
2)都市再生整備計画 に記載した目標を 定量化する指標 の達成状況	指標1	JR福岡駅乗降客数	人/日	3,538	H24 （速報）	3,538	H31	－	3,320	×	あり なし	●	人口減少や最寄りの学校再編、定数削減が影響したほか、駅前広場等の完成が最終年度の10月となったこともあって目標達成に至らなかった。	令和3年3月
	指標2	駅前観光交流センター利用者数	人/年	0	H25	27,000	H31	－	34,000	○	あり なし	－	指定管理者による広報、魅力ある事業展開により、目標を達成する見込みである。	令和3年3月
	指標3	公園等の満足度	%	66	H25	75	H31	－	74	△	あり なし	●	駅前広場を活用したイベントの開催により概ね目標を達成した。	－
	指標4	辻川界隈観光施設の年間利用者数	人	50,000	H26	60,000	H31	－	80,200	○	あり なし	－	辻川界隈でハードとソフトを組み合わせ、妖怪をモチーフとしたまちづくりの仕掛けも功を奏し、観光施設の利用者数増加に繋がった。	令和3年3月
	指標5	観光客の町内滞在時間	時間	2	H26	3	H31	－	2.8	△	あり なし	●	レンタサイクル事業やチャレンジショップの実施により、町内滞在時間は達成する見込みである。	－
3)その他の数値指標 （当初設定した数値 目標以外の指標）に よる効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み		効果発現要因 （総合所見）	フォローアップ 予定時期
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の 数値指標1	JR福岡駅 定期外乗降客数	人/日	816	H24			－	880				辻川界隈及び福岡駅前での事業展開等により、福岡駅の定期利用者が減少する中で、町への観光来訪者を含む定期外利用者数は増加傾向に転じた。	令和3年3月
	その他の 数値指標2	一人あたり 公園広場面積	m ² /人	5.20	H25			－	5.58				駅前交流広場や辻川界隈多目的広場などを整備したことで、区域内の一人あたり公園広場面積が増加し、地域住民の憩い、交流の場が広がった。	令和3年3月
	その他の 数値指標3	福岡町観光入込客数	人/年	248,000	H25			－	459,000				辻川界隈でハードとソフトを組み合わせ、妖怪をモチーフとしたまちづくりの仕掛けも功を奏し、入込客数は従前よりも大きく増加した。	令和3年3月
4)定性的な効果 発現状況	・日本民俗学の父・柳田國男の生誕地にちなんだ町おこしの一環として、辻川山公園や福岡駅前広場に設置された妖怪のモニュメントは、福岡町の新たな魅力、観光資源として大きな話題を集めている。 ・町内各地に設置された妖怪ベンチ、モニュメントなどの妖怪スポットをスマートフォン用ARアプリ「妖怪ミステリーフォトラリー」など使って回遊する観光客が増えてきている。													
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	－				都市再生整備計画に記載し、実施できた				－				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				－				
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				－				
	住民参加プロセス	「駅前振興を考える会」による提言 「福岡町文化観光まちづくり協議会」による 官民連携の取組				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●				
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				●				
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				－						
持続的なまちづくり 体制の構築	都市再生推進法人（まちづくり会社PAGE）の指定				都市再生整備計画に記載し、実施できた				●					
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				－					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				－					

様式2-2 地区の概要

都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：誰もが訪れやすく、住みやすいまちづくり及び地域資源を活用した交流拠点づくり		JR福岡駅乗降客数	単位：人/日	3,538	H24(速報)	3,538	R1	3,320	R1
目標1：交流拠点としての福岡駅周辺地区の再生		駅前観光交流センター利用者数	単位：人/年	0	H25	27,000	R1	34,000	R1
目標2：来訪者をもてなし、住民が誇らしく思える“まちの顔”づくりと地域資源のネットワーク化による観光拠点・交流拠点づくり		公園等の満足度	単位：%	66	H25	75	R1	74	R1
目標3：良好な居住環境の創出と住民との協働によるもてなしのまちづくり		辻川界隈観光施設の年間利用者数	単位：人	50,000	H26	60,000	R1	80,200	R1
		観光客の町内滞在時間	単位：時間	2	H26	3	R1	2.8	R1

The map shows the Fukuoka Station area with various project locations marked. Key locations include the station front plaza, the station front tourism exchange center, and the Tsukagawa area. Projects are categorized into basic (yellow), proposal (blue), and related (dashed line) categories. A legend explains the color coding.

凡 例

- 基幹事業 (Basic Project)
- 提案事業 (Proposal Project)
- - - 関連事業 (Related Project)

まちの課題の変化

・福岡駅前ではまちの顔となる広場空間と交流拠点が形成され、辻川界隈では観光情報等の新たな発信拠点が形成された。
・駅前観光交流センターにて辻川界隈を含めた観光情報を発信し、福岡駅周辺と辻川界隈の結びつきが強まった一方、市川を挟んだ福岡駅前と辻川界隈との物理的な結びつきは依然として弱く、駅前と辻川を結ぶアクセス道路の整備が必要である。
・福岡駅前広場及びその周辺道路の整備が進み、交通結節点としての機能強化が図られたものの、その周辺開発はまだ進んでおらず、地域に不足している商業施設の立地誘導が必要である。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

・2つの観光交流センターの施設運営の充実を図っていくとともに、駅前交流広場の利活用を推進していく。
・福岡駅を訪れる観光客の満足度を向上させ、リピート来訪と町内滞在時間の増加に向けて観光コンテンツの充実を図るとともに、辻川界隈を訪れる観光客を町全体へと回遊させて消費を促すことで町への経済波及効果を高めていく。
・鉄道事業者とも連携しながら、鉄道およびバス利用の利便性を高め、公共交通の利用促進を図っていく。
・整備された福岡駅周辺と多くの観光客で賑わう辻川界隈を結ぶアクセス道路の整備を図っていく。
・福岡駅周辺地域に不足する商業施設の立地誘導に努めていく。